



県章

岐阜県の「岐」を図案化し、それを円で囲んで郷土の平和と円満を表現したものです。

昭和7年8月に県民の応募作品の中から決まりました。



シンボルマーク

点から線、線から面へと、ら旋状に広がっていく形はGIFUのGをデザインしたもので、ダイナミックに拡大、発展していく岐阜県の姿を表しています。

県民のアンケートにより平成3年11月に決まりました。

県の花

れんげ草(げんげ)

昭和29年3月、NHKや全日本観光連盟、交通公社、植物友の会の共催で県民から公募した結果、郷土の花として選ばれました。

春ののどかな風景を象徴する花で、岐阜県は古くかられんげ草の主産地として知られています。

県の木

イチイ

昭和41年10月、「緑のニッポン全国運動」の一環として決まりました。

昔、この材で笏(しゃく)をつくって天皇に献上したところ、正一位という位を受け、以来イチイと呼ばれていると伝えられています。イチイを加工して飛騨地域で製作される一位細工は全国的にも有名です。

県の鳥

ライチョウ

昭和40年5月、広く県民から公募した結果、決まりました。

ライチョウは、日本アルプスのうちでも、2,400メートル以上の高山にのみ生息し、羽毛は、夏はかつ色、冬は白に変わります。

国の特別天然記念物に指定されています。

県の魚

あゆ

平成元年7月、広く県民から公募した結果、決まりました。

あゆは、秋に川の下流で生まれ、稚魚のまま海に下り、翌春に若あゆとなって川を遡上します。黄緑色の美しい姿と芳香とで珍重されています。

秋に再び川を下り、産卵後の短い生涯を終えます。